

編集後記

本誌・臨床評価は医薬品関連全情報誌として1972年の発刊より38年になり、現在Vol. 38となっている。最近関連分野における多くの指導者が編集委員として参加し、益々重要な情報誌となろう。

編集後記はその号との内容関連でなくても可とされて居り、編集委員の巡回執筆となったようである。今回、執筆者はいつもながら温故知新的内容である。

1992年7月26日横浜での第5回世界臨床薬理学会議の際、コントローラー委員会創立20周年サテライトシンポジウムが開かれ、創立理念と20年活動と題し、本誌発刊者佐藤倚男先生が、本誌1972年Vol. 1(1):1-2に掲載されている刊行理念を講演された。その講演内容は本誌1992年Vol. 20 Suppl VIに掲載されている。情報入手先は非常に多く、本誌もインターネットでは次の如き情報を入手可能である。

臨床評価 1999年Vol. 27(1) 巻頭言(和文) ……義務感を持ち続け、それを実践するため組織化され、その活動と臨床試験成績の公開の場として1972年「臨床評価」の発刊に至るのである。……常に先駆的な論文を掲載して、臨床試験全般に関する日本の嚆矢たる雑誌……

今回編集後記の執筆は、2, 5, 8, 14, 18, 25, 26, 29巻と本38巻で9回めであるが、有害事象診断マニュアルの発表は2008年Vol. 36(1)より2010年Vol. 37(2)までに70事象を書いた。その中で60番として死亡関連事象(含む自殺)を本誌2009年Vol. 37(1)に記載した。それは、安全性関連の研究で、医薬品服用と自殺の関係を77例検討したこともあり、その関連では最近次の情報も新聞で知り得た。TVも新聞も医薬品情報だらけの時代である。

自殺；日本において年間約3万人、死因の6番

平成22年3月30日内閣府の発表によれば、時期、属性、地域別までの自殺を分析公開した。厚生労働省が人口動態統計、警察庁が自殺統計集計であるが、内閣府がその両者データを集約・分析したものである。

2004～2008年で月別では3月が1日91人と最大、最少は12月72.9人である。

職業自営業・家族従業者、月曜日が多く、また有名人の自殺や無理心中、いじめによる自殺などの報道あり。

朝日新聞平成22年4月4日朝刊；精神医療改善に向け「こころの健康政策構想会議；岡崎裕士・松澤病院院長座長；5月末までに改革起草案を厚労省へ提出。11作業部会の1つに自殺などの早期発見を可能にする地域セーフティネットの構築がある……

以下はお偉い方の句も引用させて戴いた上の文であるが趣味にも触れさせて戴く。運動療法の薦めでもある。

駅伝徒步步き；電車の線路沿いの全駅訪駅で、現在650駅、線路距離861kmである。

人生楽ありゃ苦もあるさ、歩いて行こうぜしっかりと、自分の足を踏みしめて

人は人、吾はわれ也、とにかくに、吾行く道を、吾はゆくなり

年長けてまた超ゆべきと思いきや 命なりけり小夜の中山

年長けてまた書くべきと人はいふ 命なりけり編集後記書き

(清水直容)